

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でフラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年2月25日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	17	(依頼数)	27
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3870103177
事業所名	グループホームじゃんけんぽん
(ユニット名)	チョコユニット
記入者(管理者)	
氏名	中野由美子
自己評価作成日	2022年 2月 4日

<p><b>【事業所理念】※事業所記入</b> Gじゃんけんぼんの理念 一人ひとりが尊重され、健康で安全と自由があり、お互いが支えあいながら、明るく楽しく生活ができるやすらぎの家</p>	<p><b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b>                  &lt;目標計画&gt;1. 一人ひとりの希望に沿った外出をする。                  2. 普段行けない場所にも外出をする。                  &lt;結果&gt;1, 2, とも2年前から新型コロナウイルス発生の為、全く外出が出来なかった。</p>	<p><b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b> 職員が、紙芝居を読んだり、ギターやオカリナを演奏して利用者と一緒に歌ったりするような場面をつくっている。年間を通じて、季節行事と行事に沿った食事で楽しめるよう取り組んでいる。いつも掘り出した際にはおもちゃを利用してクリスマスリースをつくった。綾小路きみまろライブの動画をみて笑ったり、カラオケで歌ったりして気分転換する機会をつくっている。写経する人や俳句をつくる人、それぞれに応じて支援している。ペランダで職員と一緒に洗濯物を干したり、車いすの人は膝の上に集めてタオルをたたんだりして役割を持って過ごしている。  事業所で使用する米は、地域の人から購入している。ちらし寿司をつくる時(10日に一回程度)には、東・西のお宅にもおすそ分けすることを長い間続けており、なじみの関係ができています。</p>
---	---	--

**評価結果表**

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
									実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎ 入居時に、本人・家族のニーズを聞き利用者の把握に努めている。	○		○	利用者が喜んだことなどがあれば、申し送りでも共有したり、ユニット会(ケアカンファレンス含む)時に情報を持ち寄り話し合ったりして把握に取り組んでいる。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○ 日々の行動や動作、会話の中から把握、検討している。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○ 主に家族様に聞いている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○ 介護記録を細かく記入し、毎月のユニット会、カンファレンスの中で話し合い共有している。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○ 申し送りノートの活用や介護記録を見て留意している。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎ 入居時に今迄の担当者(ケアマネ)にフェイスシートをもらい話を聞き、家族様から情報ももらっている。				利用者や家族から、生活歴などを聞いているが、情報は口頭でやりとりすることとどまっている。以前に利用していた介護事業所やケアマネジャーから、生活歴や生活環境などについての情報提供がある。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)の現状の把握に努めている。	○ 日々の生活で動作や会話の中から把握している。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○ 生活の中から行動、会話、他者との話の内容を聞き把握している。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○ 申し送りや介護記録、毎月のユニット会、カンファレンスで把握している。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○ 一日のスケジュールの中で、変化があるか違いを把握するようにしている。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○ いつも本人の話を傾聴し、本人の視点で検討している。				サービス担当者会議時は、職員の気づきなどを出し合い検討している。利用者がその場に出席するようなケースもある。さらに、「その人らしい暮らしを支える」という観点から取り組みをすすめてほしい、本人の視点で検討するための、もととなる情報を明確にしてはどうか。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎ 毎月のユニット会、カンファレンスで話し合い記録に残し検討している。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○ 検討した内容は、ケア行動計画に落とし明らかなにしている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○ 認知症が進み本人の思いや意向が導き出せない場合が多い。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎ 定期的に、主治医・家族・ケアマネ・看護師・介護士が集まり会議を開いている。	○		○	家族、利用者の意向を踏まえてサービス担当者会議で話し合った内容をもとに、計画作成担当者が介護計画を作成している。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○ ケアプランを基にケア行動計画チェック表で統一している。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○ 月一回の運営推進会議の中で民生委員・地域包括市の介護保険課と話し合い協力してもらっている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎ ケアプランを基にケア行動計画チェック表で、申し送りノートやユニット会で共有している。			○	介護計画書を個人ファイルにとじて共有している。新たに計画を作成した際には、ユニット会で計画の支援ポイントを具体的に話し合い、ケア行動計画チェック表の項目を作成している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○ ユニット会、カンファレンスでフィードバック記録をし日々の支援につなげている。			○	ケア行動計画チェック表の項目に沿って、毎日、実践できたかを○と△で記入している。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○ すべて個人の介護記録に細かく記入している。				△	介護記録に記入することになっているが、介護計画に基づいたという点からは、記録量が少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○ 申し送りノートに記入したり、個人の介護記録に記入している。				○	ユニット会時に情報を出し合い記録している。

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	◎	期限がきたときや入院等して状態が変わった時など見直しをおこなっている。			◎	ケア行動計画チェック表に、期間を明示しており、計画作成担当者が責任を持って6ヶ月毎に見直しを行っている。	
		b	○	毎月のユニット会で状況確認をしている。			◎	月1回、ケア行動計画チェック表等をもとにして、ユニット会時に、全利用者について現状確認を行っている。	
		c	◎	状態が変化した場合、多職種と話し合い新たに計画を作成している。			○	退院後など、身体状態に変化があれば見直しを行っている。	
7	チームケアのための会議	a	◎	毎月のユニット会と緊急時の場合は申し送りノートを利用している。			○	月1回、各ユニットでユニット会を行い、議事録を作成している。	
		b	◎	毎月のユニット会は全員参加できる日を選び開催、一人一言は意見を言うようにしている。					
		c	◎	全員参加出来る日を選び、ユニット内でしている。					
		d	◎	ユニット会の報告書で読んでもらいサインをすするようにしている。			◎	参加・不参加に関わらず、全員が議事録を確認して、サインをすするしきみをついている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	◎	出勤したらすぐ申し送りノート見てサインする仕組みをとっている。			◎	家族からの伝言や業務連絡などの情報は、申し送りノートに記入し、サインをすするしきみをついている。	
		b	◎	申し送りノートや介護記録を見て、情報の共有をしている。	○				
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	○	利用者の言うことを傾聴し出来る事は行うよう努めている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	○	意思疎通が出来る方は、会話の中で聞くようにしている、意思疎通が出来ない方については職員がその方に合わせて選んでいる。			評価困難		
		c	○	本人が望んでいることを聞き、出来るだけ支援している、					
		d	○	団体生活をとっている。生活の中で、出来るだけ本人のペースに合わせた生活リズムに合わせている。					
		e	△	今はコロナの影響で外出が出来なかったり、家族にも直接会えない。毎日レクリエーションを行い、暖かい日はベランダに出て日向ぼっこをしたりしている。			○		職員が、紙芝居を読んだり、ギターやオカリナを演奏して利用者と一緒に歌ったりするような場面をつくっている。
		f	○	声掛けをして本人の表情や仕草を読み取り援助している。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	○	プライバシーを守り、本人の人権を大切に行動している。	◎	◎	○	オンラインの外部研修などに積極的に参加しており、受講した職員がユニット会時に伝達している。この一年間では、看とり支援についての研修を受講して尊厳について学んでいる。各ユニットのリーダーは、利用者の呼び方や「温和な声かけや態度」を実践して、職員の手本となるよう取り組んでいる。	
		b	○	例えば、失禁している場合はそっと声掛けトイレに誘導し交換している。入浴は個人浴の為プライバシーは完全に保たれている。			評価困難		
		c	◎	オムツ交換の方は居室のドアを閉める。入浴時は個人浴の為完全にプライバシーの保護は出来ている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	○	部屋に入る時はノックをする。掃除などで屋場場合は本人に声掛けをしてから入るようにしている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		e	○	職員には個人情報漏洩しないよう、説明文と承諾書をとっている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	○	日々の会話で常に尊敬語を用い年上の方を敬っている。					
		b	○	超高齢で助け合うことは出来ないが、他者とお話ははずんでいる。					
		c	○	毎月の壁絵を作る時は、折り紙をちぎったり、絵を書いたり共同作業をしてもらっている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	○	この様な場面は余りないが、ある時は仲裁に入り大声をたさずその場から離れ話を聞く。					

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	○	本人の会話の中や家族の情報などで把握している。				この一年間では、感染対策を徹底して桜やコスモスを見に出かけている。日常の中では、中庭の植物をみて過ごしたり、菜園でも掘りまわしたり、ベランダに出て洗濯物を干したり、お茶の時間を持ちたりしている。	
		b	○	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。					
		c	△	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。					
		d	△	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。					
13	日常的な外出支援	a	△	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度的場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	○	△	この一年間では、感染対策を徹底して桜やコスモスを見に出かけている。日常の中では、中庭の植物をみて過ごしたり、菜園でも掘りまわしたり、ベランダに出て洗濯物を干したり、お茶の時間を持ちたりしている。  リクライニング車いすの利用者もベランダに出てひなたぼっこして過ごせるよう支援しているが、機会は少ない。	
		b	×	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。					
		c	○	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。			△		
		d	×	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	○	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。				毎日ラジオ体操を行っており、外出ができない状況になってからは、屈伸運動なども追加して行えるよう支援している。 オンライン体操レクリエーションを採り入れて、利用者も体を動かす機会をつくっている。	
		b	◎	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。					
		c	○	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)		○	○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	○	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。				年間を通じて、季節行事と行事に沿った食事で楽しめるよう取り組んでいる。おもてなしの際はおもてなしツールを利用してクリスマスリースをつくった。 線小路きまらライブの動画をみて笑ったり、カラオケで歌ったりして気分転換する機会をつくっている。 写経する人や俳句をつくる人、それぞれに応じて支援している。 ベランダで職員と一緒に洗濯物を干したり、車いすの人は膝の上に掛けてタオルをたたんだりして役割を持って過ごしている。	
		b	○	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。		○	○		◎
		c	×	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	◎	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策期間中も、感染防止対策を徹底して月に1度は、訪問美容師の利用ができるよう支援した。カット、毛染め、パーマなど、利用者の希望に沿って行ってもらっている。入浴後にドライヤーをかける時には、職員がブローして本人が嬉しい気持ちになるような支援にも配慮している。 衣服については、家族が用意したものを着て過ごしているが、場合によっては、誕生日プレゼントに職員が洋服を選んで事業所からプレゼントしている。	
		b	◎	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。					
		c	◎	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。					
		d	◎	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。					
		e	○	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできず、髪や顔のケアができていない。(髻、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)		○	◎		◎
		f	△	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		△			
		g	○	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。		○			○

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	◎	利用者に食べる楽しさや栄養も考えて、献立を立て作っている。				献立は、利用者には「何が食べたい？」と聞きながら、各ユニットで2週間ごと順番に作成している。利用者からは寿司の希望が多く、10日に1回はちらし寿司を採り入れている。 肉、卵、味噌、醤油などは、各業者に注文して配達してもらっている。その他の食材は職員が買い物に行っている。 利用者が台拭きをしたり、じゃがいも、筍、豆の皮むきなどを行う場面をつくっている。  正月のおせち料理やお花見の手作り弁当等、季節行事に沿って食事を楽しめるように支援している。 利用者に希望を聞きながら献立を決めており、麺類を希望する人が多く、調査訪問日の昼食の汁ものにも少しそうめんを入れている。手作りミートスパゲッティが利用者には好評のようだ。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  献立作成時は、職員でバランスなどについて話し合いながら立てている。 メインのおかずでタンパク質をしっかり摂れるような献立に工夫しており、また、いろいろな食材を使用して、盛り付けや彩りにも工夫していた。	
		b	△	「超高齢」と認知度が高くなり利用者と一緒に出来なくなり、テーブル拭き位しかできなくなっている。			○		
		c	○	コロナで外出は出来ない。テーブル拭き位しか出来ない。					
		d	◎	残飯をみたり、利用者の好き嫌いを聞き把握している。					
		e	◎	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。					◎
		f	◎	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)					
		g	◎	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。					評価困難
		h	◎	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。					評価困難
		i	◎	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。			◎		評価困難
		j	◎	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。					
		k	◎	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。					
		l	○	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。					○
		m	◎	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。					
18	口腔内の清潔保持	a	◎	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。				毎月、訪問歯科医の検診を受けて口腔内の健康状態について管理しており、歯科医の指導を得て日々の口腔ケアを行っている。食前の口腔体操を採り入れている。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	◎	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。			◎		
		c	◎	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。					
		d	◎	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。					
		e	◎	利用者の方を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)					評価困難
		f	◎	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	○	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。				申し送りやユニット会時に話し合いながら支援している。
		b	○	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。				
		c	◎	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)				
		d	○	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎		◎	
		e	◎	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	◎	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。				
		g	◎	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。				
		h	◎	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。				
		i	◎	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	◎	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	
b	◎			一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるような支援している。				
c	◎			本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。				
d	◎			入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。				
e	◎			入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	◎	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。				薬剤を使用する利用者については、本人の状況を医師に報告して相談しながら支援している。
		b	○	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。				
		c	◎	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。				
		d	◎	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。				
22	電話や手紙の支援	a	◎	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。				携帯電話が必要な方や管理が出来る方については持たせているが、電話をかけたばかりかかってもらったりして協力して頂いている。自分で書ける方は手紙のやり取りをしている。
		b	◎	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。				
		c	◎	気兼ねなく電話できるよう配慮している。				
		d	◎	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。				
		e	○	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	◎	現在、ご自身がお金を管理している方はいない。職員がカギ付き金庫で管理している。				/	
		b	△	コロナで外出が出来ない。必要な物があれば職員が買ってきている。					
		c	×	コロナで買い物は行けていない。					
		d	○	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。					
		e	◎	本人が所持していないが、必要な物があれば家族様と相談している。					
		f	◎	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	◎	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに採り入れられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎		○	新聞に俳句を投稿する利用者や友人と文通する利用者には、継続できるように投函などとしてサポートしている。生協のカatalogをみて個人で注文する人をサポートしている。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	◎	良い環境を確保為、毎朝玄関回り、庭掃除をしている。コロナ感染防止のため、玄関入口までははしらない。	◎	◎	◎	玄関先には、いろいろな種類の植物を育て緑の多い空間をつくっている。各所に花を飾ったり、観葉植物を置いたりしている。掃除が行き届いている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	◎	共有スペースには、季節毎に壁絵を作り(利用者)と飾っている。台所はリビングと同じ空間になっていて家庭的なふいんきになっている。	○	◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	◎	毎朝、換気、掃除機・拭き掃除、アルコール消毒等行い環境整備に努めている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	◎	食事は季節の物を出し、クリスマスツリーやお正月のお飾りなど季節を感じられるようにしている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	○	気兼ねなく利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。					
		e	◎	トイレ・浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	◎	入居時、本人が使っていた物や、持ち物など持って来てもらい、使ってもらっている。	◎		◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	○	出来る方は、自由にして貰っているが、出来ない方は職員が援助している。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	○	利用者の行動を理解しながら、職員間で相談している。					
		c	○	本人の居室に置いてあり、いつでも使えるように手の届く所に置いてある。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	○	コロナでユニット間の行き来も出来ない現状がある。帰宅願望のある方については、家族様の許可を得て一時的に玄関の鍵をかける場合がある。	◎	◎	◎	◎	職員は鍵をかけた支援することが当たり前と認識しており、日中、玄関、ユニット入り口は施錠していない。身体拘束については3ヶ月に一回の内部研修時に勉強をしている。
		b	○	問題が生じた場合は、家族様と相談し話している。					
		c	○	帰宅願望で玄関に行く場合は、チャイムもあるが、職員がついて外まで出る場合もある。					
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	◎	フェイスシートやカルテ表紙に病歴・留意事項等について把握している。				/	
		b	◎	毎日のバイタルチェックや表情、いつもと違うなと感じた時、看護師に相談し、介護カルテに細かく記入している。					
		c	◎	ユニット内に看護師が在中して夜間も電話相談や急用の時はかけつける体制をとっている。					

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	◎	一人ひとり主治医があり、職員は把握できている。	○			
		b	◎	外来通院している人以外は、かかりつけ医と契約を結んでいる。				
		c	◎	担当者会議を開き、必要に応じた話し合いをしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	◎	本人、家族さまに丁寧に説明をしている。				
		b	△	入院した場合、コロナ渦で面会が出来ないため、病院Nsや地域連携室と連絡を取り合っている。				
		c	△	良く利用する医療機関は挨拶に行き、救急で利用する場合は、入院時退院時に関係作りをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	◎	訪問診療時や異常時はかかりつけ医・訪問看護師に相談している。				
		b	◎	施設内看護師はもちろん、24時間訪問診療契約しており、気軽に相談出来る環境にある。				
		c	◎	毎日のバイタルチェックや各ユニットに看護師を配置して早期発見に繋がっている。				
34	服薬支援	a	◎	お薬手帳・薬剤情報を参考にし、分からない事は看護師に教えて貰うようにしている。				
		b	◎	一人ひとりお薬ケースがあり、薬剤師がセットして持ってきてくれる。一人ひとりカップに入れ二重チェックをしている。飲み込みを確認している。				
		c	○	異常時は薬剤副作用をチェックし、介護記録に記入している。				
		d	○	カンファレンスで本人の状態を話し合い、記録して情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	◎	看取り希望の家族様については、看取りケアの説明をし承諾書を買っている。看取りの時期に入ると家族・主治医・職員と話し合い、情報を共有している。				入居時、家族に、終末期の支援についての事前確認書や緊急対応同意書で意向を確認している。その後、状態変化時に、再度、家族に意向を確認し、主治医、家族、職員で話し合い方針を共有している。新型コロナウイルス感染症対策期間の看取り支援は、家族も感染対策を徹底してもらい、一緒に支援を行えるよう取り組んだ。
		b	◎	リモート学習をしたり、職員、主治医と方針を共有している。	○	◎		
		c	○	カンファレンスで学習したり、話し合ったり、日々の現場の中で力量を見極め、ユニット間で協力している。				
		d	◎	事業所契約時、十分な説明を行い理解を得ている。重症化、看取りについてはその都度説明を行っている。				
		e	◎	常に、ミニカンファをし、かかりつけ医と連絡を取りながら支援し検討や準備をしている。				
		f	◎	コロナのため、面会はコロナワクチン2階接種証明書お取り、問診票記入、マスク、手洗い、アルコール消毒をして、本人に会える様考慮している。				
36	感染症予防と対応	a	△	感染症について、特にコロナウイルスについては、何度も学習会をしてシミュレーションを学んでいる。マニュアルも作っている。				
		b	△	感染症マニュアルに沿って対応できるようにしているが、発生した場合は速やかに対応出来るかは不安がある。				
		c	◎	常に、事務長が新しい情報をおろしてくれている。				
		d	○	運営推進会議で情報収集して、議事録を回覧している。				
		e	◎	常に、標準予防策に取り組み感染防止に努めている。来訪者についても同様になっている。				



項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○				
		b		家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△				
		c		家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×		○		新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。
		d		来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎		◎	◎	必要時に電話で報告したり、毎月の書類送付時に、担当職員からの手紙(本人の状況について)を同封して報告したりしている。
		e		事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○				
		f		これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○				
		g		事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△		△	○	2ヶ月に1回、「たよりじゃんけんぼん」を発行し、行事などの様子を報告している。また、令和2年2月より、ブログを開設して、2ヶ月に一度程度、行事の様子などを載せている。消防点検や電気機器点検、職員研修などの状況は、「たよりじゃんけんぼん」に載せている。職員の入退職についての報告は行っていない。
		h		家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×				
		i		利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○				
		j		家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○			○	現在は、電話連絡など、家族とやりとりをする中で関係づくりに取り組みながら、意見や希望を聞くことに取り組んでいる。オンライン面会、また、ドア越し面会等、その時期に応じて、面会の方法を検討して支援している。
38	契約に関する説明と納得	a		契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎				
		b		退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○				
		c		契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a		地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△		○		
		b		事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×		△	△	回覧板で地域の情報を得ている。事業所で使用する米は、地域の人から購入している。ちらし寿司をつくる時(10日に一回程度)には、東・西のお宅にもおすそ分けすることを長い間続けており、なじみの関係ができています。
		c		利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×				
		d		地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×				
		e		隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りなど、日常的なおつきあいをしている。	×				
		f		近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△				
		g		利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△				
		h		地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△				

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
40	運営推進会議を活かした取組み	a	△	今はコロナで出来る時と出来ない時がある。出来る時は社長、管理者、ケアマネ、民生委員、松山市介護保険課、地域包括、家族が参加している。	△		△	地域の人、地域包括支援センター、市の担当者の参加を得ている。この一年間では、会議を文書開催で行うことが多かったが、時期をみながら集まる会議(7月、11月)を行った。		
		b	△	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。				○	利用者や活動について報告を行っている。会議の中で職員が講師となり、学習会を行っている。外部評価実施後のみ評価結果について報告を行った。昨年の自己評価実施後には、報告は行っていない。	
		c	◎	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。				◎	◎	メンバーからの意見等も踏まえて、感染症対策についての研修受講を積極的に行っている。
		d	◎	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。				◎		
		e	◎	運営推進会議の議事録を公表している。						
<b>IVより良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	◎	グループホームじゃんけんぽんの理念は皆が見える所に貼っている。						
		b	◎	契約時、理念の説明をしている。	○	△				
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	◎	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎					
		b	◎	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎					
		c	◎	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎					
		d	○	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○				職員は、定期的なストレスチェックを行っている。結果は個々に届くようになっている。休憩時間を確保しており、休憩室でゆっくりできるような空間をつくっている。代表代理や事務長はユニットをまわって職員の声を聞くような機会を持っている。	
		e	○	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○		○	○		
43	虐待防止の徹底	a	△	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△					
		b	△	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△					
		c	○	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○			○	職員は、外部研修時に勉強をしたり、3ヶ月に1回、虐待や身体拘束についての内部研修で勉強したりしている。	
		d	○	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	△	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△					
		b	○	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○					
		c	○	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	△	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△					
		b	△	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△					
		c	△	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△					

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	×	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	×				
		b	△	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△				
		c	◎	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎				
		d	◎	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	○	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○				
		b	○	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○				
		c	○	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○				
48	運営に関する意見の反映	a	○	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○		○	日々の中で聞いている。	
		b	△	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	○	○	「ひ孫と会わせたい」等、家族からの要望があれば、面会制限がある時期でも可能な方法を模索、検討して、実現に向けて支援している。	
		c	○	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○				
		d	◎	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎				
		e	○	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○			◎	職員の意見や提案を聞く窓口となる職員(チョキユニットリーダー)を決めて取り組んでいる。
49	サービス評価の取り組み	a	◎	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎				
		b	○	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○				
		c	△	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△				
		d	△	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	△	○	△	外部評価実施後のみ評価結果について報告を行った。昨年の自己評価実施後には、報告は行っていない。モニターをしてもらった取り組みは行っていない。
		e	△	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△				
50	災害への備え	a	◎	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎				
		b	△	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△				
		d	○	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○				
		e	×	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	△	○	△	年2回、職員と利用者で避難訓練を行っている。地域との協力・支援体制の確保に向けた取り組みについては、このような時期でもできることはないか、運営推進会議なども活かして話し合ってみてはどうか。
		f	×	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×				

項目No.	評価項目	小項目	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナで今は参加できないが、以前は公民館などで、介護教室など地域密着型の講習会には参加していた。				
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	主にケアマネが行っている。職員も相談があれば対応している。		○	△	相談があれば乗るが、さらに、今後は地域に向けて気軽に相談できる場所として認知してもらえるような取り組みをすすめてはどうか。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナで今は出来ないが、コロナ前はボランティアによる歌会などしていた。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ前は高校生(介護福祉科)の実習を受け入れていた。コロナが終息したら再開する。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	主にケアマネが行っている。職員も相談があれば対応している。			○	高校福祉科の実習の場として提供している。介護サービス事業者連絡会に参加して連携している。